

キャリア形成プログラム

(内科学第三教室)

取得を目指す専門医資格

総合内科専門医

【コースの概要】

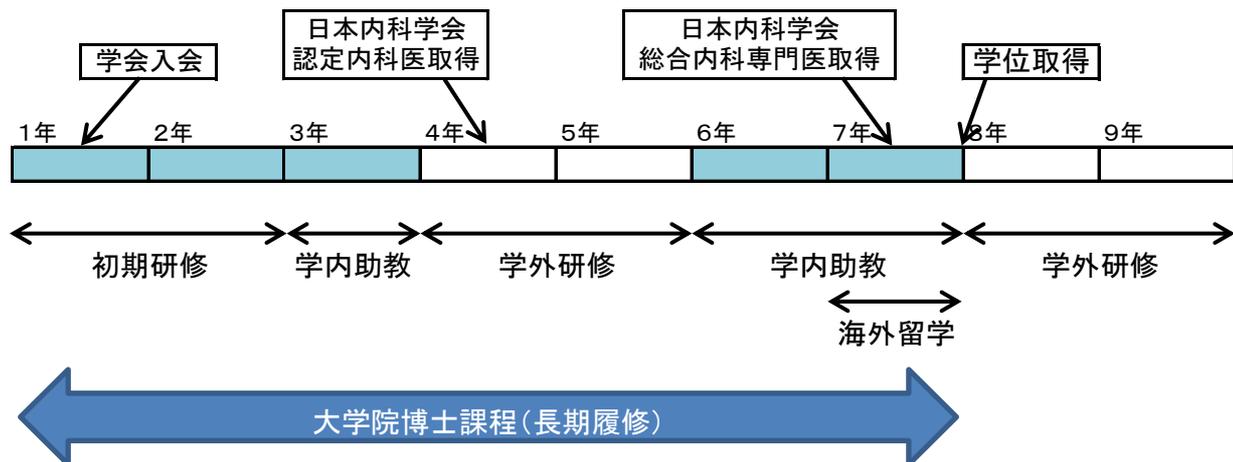
全体像

呼吸器内科・腫瘍内科で研修を行うことで、専門医取得に関しては、まず卒後4年目に日本内科学会認定内科医、卒後7年目に日本内科学会総合内科専門医の修得が可能である。大学院は、卒後1年目から6年目の間に入学が可能で、基本的には9年の義務年限中の学位取得が可能である。学外研修中も大学院生として継続研究も可能である。研究内容は、肺癌や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息に関する、病態解明、臨床評価法の開発、治療法の評価等、基礎的ならびに臨床的側面からの研究をテーマとしている。留学に関しては、義務年限中1年間の海外留学が可能である。今まで当教室からはUniversity of Edinburgh (米国)、Imperial College London (英国)、University of Montreal (カナダ)、University of Southern Colorado (米国) 等への留学籍がある。

地域中核病院での研修に関し、当科では、日本内科学会教育関連病院、日本呼吸器学会認定施設である公立那賀病院、日本呼吸器学会認定施設である国立病院機構和歌山病院、さらに海南医療センターを中心に専門的な臨床研修を予定している。中核病院勤務中も、週1回大学で研究を行う時間があり、大学での継続的な臨床研修あるいは基礎及び臨床研究を継続することが可能である。

・9年間の研修予定(モデルコース)

※ は学内研修



指導体制

・研修先病院

学会認定施設	研修病院名	診療科	指導者数 (人)	うち専門医 数(人)	受入可能最大 人数(人)
○	公立那賀病院	呼吸器内科	3	1	2
×	国立病院機構和歌山病院	呼吸器科	3	1	3

・日本内科学会認定医について

学 会 名	日本内科学会
資 格 要 件	<p>医師免許 学会会員である 内科研修歴: 1、2、いずれかに該当し、内科全般の研修を修了した者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研修2年 + 教育病院(内科臨床大学院含む)での内科研修1年以上 = 計3年以上(その内18か月間以上, 内科研修していること) 2. 臨床研修2年 + 教育関連病院での内科研修1年以上 = 計3年以上(その内18か月間以上, 内科研修していること) <p>臨床研究歴: 受持入院患者18症例の一覧表, 18症例の病歴要約, 退院時サマリーのコピー, プレゼンテーション(口頭発表)したことを証明するもの, 救急蘇生講習会の受講修了証のコピー, 臨床研修修了登録証のコピー(2004年以後の医師国家試験合格者のみ提出). の提出を必要とする</p>

・日本内科学会総合内科専門医について

学 会 名	日本内科学会
資 格 要 件	<p>医師免許・認定内科医 学会会員歴 : 3年以上 認定内科医資格取得後の内科研修歴: 1~3 いずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育病院(内科臨床大学院含む)での内科研修1年以上 + 教育関連病院での内科研修 = 計3年以上 2. 教育病院での内科研修1年以上 + 無認定病院を含む内科研修(要派遣証明書) = 計3年以上 3. 教育病院での内科研修1年未満 + 教育関連病院での内科研修 = 計5年以上 <p>臨床研究歴: 受持入院患者20症例の一覧表, 20症例の病歴要約, 退院時サマリーのコピー, 学会または論文として発表した臨床研究(基礎的な研究は除く), またはfirst authorで報告した症例報告のいずれかで計2件の業績の提出を必要とする。</p>

キャリア形成プログラム

(内科学第三教室)

取得を目指す専門医資格

呼吸器専門医

【コースの概要】

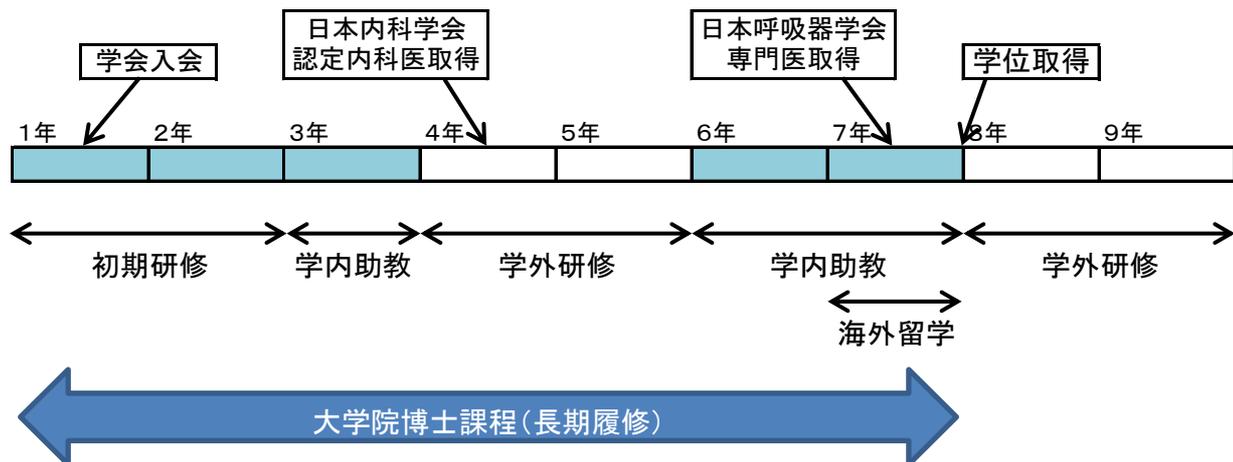
全体像

呼吸器内科・腫瘍内科で研修を行うことで、専門医取得に関しては、まず卒後4年目に日本内科学会認定内科医、卒後7年目に日本呼吸器学会専門医が取得可能である。大学院は、卒後1年目から6年目の間に入学が可能で、基本的には9年の義務年限中の学位取得が可能である。学外研修中も大学院生として継続研究も可能である。研究内容は、肺癌や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息に関する、病態解明、臨床評価法の開発、治療法の評価等、基礎的ならびに臨床的側面からの研究をテーマとしている。留学に関しては、義務年限中1年間の海外留学が可能である。今まで当教室からはUniversity of Edinburgh (米国)、Imperial College London (英国)、University of Montreal (カナダ)、University of Southern Colorado (米国) 等への留学歴がある。

地域中核病院での研修に関し、当科では、いずれも日本呼吸器学会認定施設である公立那賀病院、国立病院機構和歌山病院を中心に専門的な臨床研修を予定している。中核病院勤務中も、週1回大学で研究を行う時間があり、大学での継続的な臨床研修あるいは基礎及び臨床研究を継続することが可能である。

・9年間の研修予定(モデルコース)

※ は学内研修



キャリア形成プログラム

(内科学第三教室)

取得を目指す専門医資格

アレルギー専門医

【コースの概要】

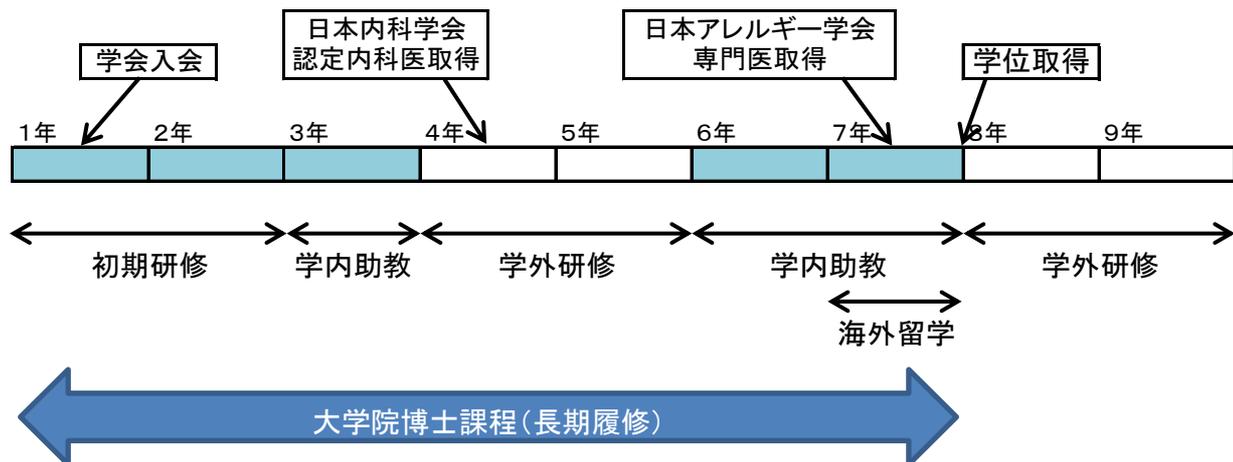
全体像

呼吸器内科・腫瘍内科で研修を行うことで、専門医取得に関しては、まず卒後4年目に日本内科学会認定内科医、卒後7年目に日本アレルギー学会専門医が取得可能である。大学院は、卒後1年目から6年目の間に入学が可能で、基本的には9年の義務年限中の学位取得が可能である。学外研修中も大学院生として継続研究も可能である。研究内容は、肺癌や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息に関する、病態解明、臨床評価法の開発、治療法の評価等、基礎的ならびに臨床的側面からの研究をテーマとしている。留学に関しては、義務年限中1年間の海外留学が可能である。今まで当教室からはUniversity of Edinburgh (米国)、Imperial College London (英国)、University of Montreal (カナダ)、University of Southern Colorado (米国) 等への留学歴がある。

地域中核病院での研修に関し、当科では、いずれも日本呼吸器学会認定施設である公立那賀病院、国立病院機構和歌山病院を中心に専門的な臨床研修を予定している。中核病院勤務中も、週1回大学で研究を行う時間があり、大学での継続的な臨床研修あるいは基礎及び臨床研究を継続することが可能である。

・9年間の研修予定(モデルコース)

※ は学内研修



キャリア形成プログラム

(内科学第三教室)

取得を目指す専門医資格

気管支鏡専門医

【コースの概要】

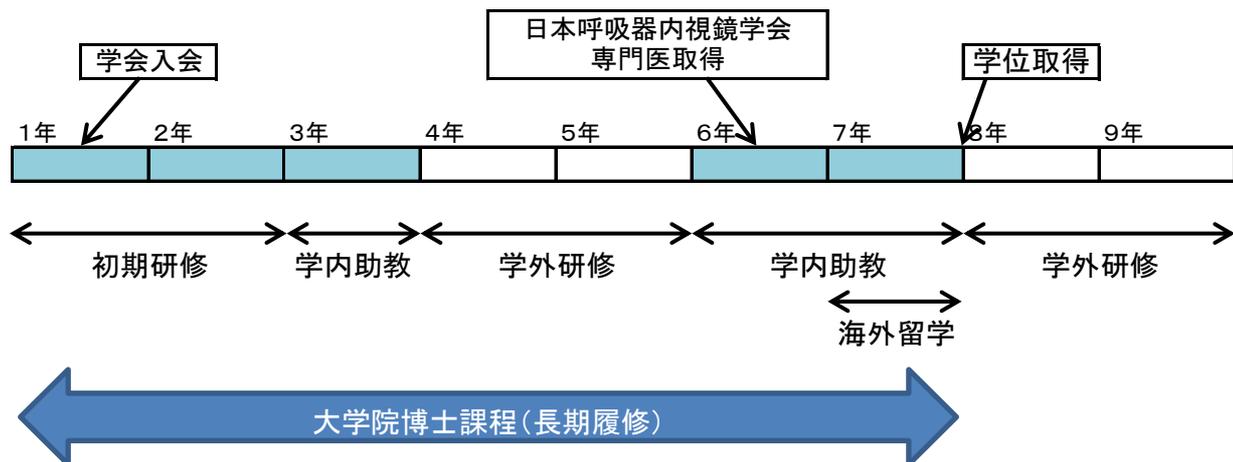
全体像

呼吸器内科・腫瘍内科で研修を行うことで、専門医取得に関しては、卒後6年目には日本呼吸器内視鏡学会の専門医の取得が可能である。大学院は、卒後1年目から6年目の間に入学が可能で、基本的には9年の義務年限中の学位取得が可能である。学外研修中も大学院生として継続研究も可能である。研究内容は、肺癌や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息に関する、病態解明、臨床評価法の開発、治療法の評価等、基礎的ならびに臨床的側面からの研究をテーマとしている。留学に関しては、義務年限中1年間の海外留学が可能である。今まで当教室からはUniversity of Edinburgh (米国)、Imperial College London (英国)、University of Montreal (カナダ)、University of Southern Colorado (米国) 等への留学籍がある。

地域中核病院での研修に関し、当科では、いずれも日本呼吸器学会認定施設である公立那賀病院、国立病院機構和歌山病院を中心に専門的な臨床研修を予定している。中核病院勤務中も、週1回大学で研究を行う時間があり、大学での継続的な臨床研修あるいは基礎及び臨床研究を継続することが可能である。

・9年間の研修予定(モデルコース)

※ は学内研修



キャリア形成プログラム

(内科学第三教室)

取得を目指す専門医資格

がん薬物療法専門医

【コースの概要】

全体像

呼吸器内科・腫瘍内科で研修を行うことで認定医・専門医取得に関して、卒後4年目に日本内科学会認定内科医、卒後8年目に日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医の取得が可能である。

概要: 日本臨床腫瘍学会が規定する「がん薬物療法専門医のための研修カリキュラム」に準じ、がん薬物療法専門医にもとめられる、①薬物療法に関する十分な基礎知識や経験を得る、②標準的治療を正しく実施できる、③薬物療法に伴う副作用に適正に対処できる、④新しい治療法創生のための臨床試験に参加する、⑤緩和医療ができる、⑥セカンドオピニオンに対応できる、などを目的とした研修を行う。

研修プログラム: コース全体の研修期間は2年間とする。当科において、主に肺がんの標準薬物療法を主とした入院診療や臨床試験を含めた研修を行う。また、研修期間中に血液内科(3カ月)、化学療法部門(3カ月)、緩和ケア部門(1カ月)の計7ヶ月間のローテーション研修をおこない、血液がん、消化器がん、乳がん、婦人科がん、泌尿器がん、皮膚悪性腫瘍など多くのがん腫の分子標的治療を含むがん薬物療法や緩和医療の診療経験、症例経験を蓄積する。この研修により専門医申請必修研修となる肺がん・消化器がん・乳がん・造血器悪性疾患の薬物療法を研修することが可能である。

・9年間の研修予定(モデルコース)

